

国語 第6学年 いちばん大事なものは 検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：大事にしていることについて立場と理由を明らかにし、異なる考えと比較して自分の考えを広げる。価値観の同意を強制しない。A(1)オの学習として、自分の考えと理由、相手の考えの要点、話し合い後の自分の考え。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、立場や意図を明らかにして計画的に話し合い、考えを広げたりまとめたりしているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。A(1)オの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：自分の考えと理由、相手の考えの要点、話し合い後の自分の考えを残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、A(1)オに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：つまり児童にはどんな支援をするか。

返し：価値に順位を付けて人を評価する、言いたくない個人経験を話させる。これに対して、学校生活など話せる範囲の例を選び、話題を替える選択も用意する。考え・理由・例を分け、聞き手は相手の理由を確かめてから質問する。〔知識及び技能〕(2)アとA(1)オを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「相手の理由を聞いて、自分の考えにどんな点を付け加えられますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、A(1)オに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：自分の考えと理由、相手の考えの要点、話し合い後の自分の考えは紙に記録できる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をA(1)オの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。A(1)オで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：この教材で、誤りやすい点をどう確かめるか。

返し：価値に順位を付けて人を評価する、言いたくない個人経験を話させる。学校生活など話せる範囲の例を選び、話題を替える選択も用意する。考え・理由・例を分け、聞き手は相手の理由を確かめてから質問する。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「相手の理由を聞いて、自分の考えにどんな点を付け加えられますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。A(1)オに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

